

厚生労働省でのこれまでの経験について

私は大学の授業の一環で、数学科出身の色々な分野の方のお話を聞く機会があり、そこで厚生労働省数理職の話聞いて、そういう就職先もあるのだということを知りました。今、厚生労働省で10年以上働いたことを考えると、当時、自分の就職先を考えるにあたり、現職の方の生の声を聞けたことはとても良かったと思います。

年金局、保険局

年金局、保険局は多くの数理職がおり、私も配属されていたことがあります。業務内容としては、

- ・統計の作成や分析
- ・将来推計、試算の作成

また、それに付随する対外的な対応として、

- ・内部関連部署（上、下、横、斜め）との調整
- ・様々な方からの照会等対応

などがありました。ここで言いたいことは、数理職といっても単に統計の作成や計算だけをしているのではなく、対外的なやりとりも必要ということです。数理的な業務を行う上で必要な技術（スキル）は、今振り返ればエクセルやプログラミング、統計学など多岐にわたりますが、適宜、上司や先輩から教えてもらうなどして身につけていくことができました。

法律の作成や、制度を運営していく上で、データは重要な検討材料となり、適切なエビデンスに基づいて政策立案をすることが求められています。特に、厚生労働省が扱う社会保障や労働の分野は全ての人に関係する、規模の非常に大きいものであるため、実態を正確に把握し、適切に意思決定していく必要があると感じました。

国際課、短期在外研究員、国際会議

国際課では、OECD関係の業務をしており、OECDの会議に向けた準備、データベース作成等のプロジェクトの作業、報告書作成への対応等を行いました。ここでもデータ

が多く活用され、厚生労働に関係する報告書が多数出ました。OECDは先進国を中心としたメンバー国によって構成される、経済成長を目的とした国際機関で、このOECDの取組に日本としてしっかりと対応して、有益な形でフィードバックできればと考えました。特に、データについては、国際比較が行われるとき、適切な指標が使われているかということや、平等な比較になっているかということに注意しました。またシンガポール大学のリークワンユー公共政策大学院で短期在外研究員として1年間社会保障制度について研究しました。ここにはアジアを中心とした世界各国の主に政府機関から学生がきており、公共政策をはじめとした色々なことについて話すことができ、大変刺激を受けました。また、外国の制度について調べるに当たり、教授から指導を受け、政府ホームページ・統計・メディア・説明会・論文など多面的に調べることができました。

ILOで開催された労働統計家の会議では、労働統計に関する国際基準について議論が行われました。

政策統括官（統計・情報政策、政策評価担当）

厚生労働省の統計調査・統計の多くはここで作成されており、私の業務は、何か特定の統計調査を担当しているわけではないのですが、厚生労働省の統計全体の改善に取り組んでいます。統計を改善するにあたり、統計の作り手（メーカー）だけでなく、統計を活用するユーザーの意見や、個々の統計調査が野放しにならないよう、体系的に整備するようにしています。統計の改善について議論するための会議を開催し、大学教授をはじめとした有識者の方からご意見をいただくこともあります。

最後に

厚生労働省は少子高齢化の中で様々な課題に取り組んでいます。ぜひやる気のある方に来ていただいで一緒に仕事ができればと思います。

政策統括官（統計・情報政策、政策評価担当）

官野 千尋（補佐級）

経歴

保険局、大臣官房国際課、海外留学等を経て現職